

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復師科 (昼間Ⅰ部・Ⅱ部)	夜・通信	270 時間	240 時間	
	鍼灸師科 (昼間Ⅰ部・Ⅱ部)	夜・通信	270 時間	240 時間	
文化・教養 専門課程	日本語学科 (医療福祉系1年コース)	夜・通信	380 時間	80 時間	
	日本語学科 (進学1.5年コース)	夜・通信	570 時間	120 時間	
	日本語学科 (進学2年コース)	夜・通信	760 時間	160 時間	
	応用日本語学科 (1年コース)	夜・通信	154 時間	80 時間	
	応用日本語学科 (2年コース)	夜・通信	470 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ「 https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/ 」に掲載
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページアドレス「 http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html 」 令和元年度事業報告書に記載「12 ページ参照」
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社エビススポーツマッサージ社長	2019.4.1～ 2021.3.31	企画・調整
非常勤	公益社団法人全国柔整鍼灸協会監事・学校法人福寿会理事	2020.4.1～ 2022.3.31	産学連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。 尚、評価は、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)の4段階で表す。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【医療専門課程】 授業科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。(100点満点で点数化) これによって算出した平均点を客観的な指標とする。</p> <p>【文化・教養専門課程】 授業科目の成績を4段階(優・良・可・不可)で評価し、成績評価係数を算出する。 これによって算出した成績評価係数を客観的な指標とする。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学則で定めている卒業要件となる全ての単位を修得(または所定の授業時間数を履修)し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	平成医療学園専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html
財産目録	http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html
事業報告書	http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html
監事による監査報告（書）	http://www.heisei-iryo.ac.jp/gakuen/disclosure.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	柔道整復師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,805 単位時間/単位	1,395 単位時間 /単位	600 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	630 単位時間 /単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
330人		161人	0人	8人	28人	36人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定める評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている卒業要件となる全ての単位を修得し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 様々な種類の自由参加型ゼミを開講している。 また、定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
46人 (100%)	6人 (13.0%)	37人 (80.4%)	3人 (6.5%)
(主な就職、業界等) 病院、接骨院・整骨院等			
(就職指導内容) 面談の実施や、就職フェアへの誘導などを実施。 また関連団体を通して、就職先紹介も行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験 32名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
183人	22人	12.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、経済的事情、家庭事情、けが・病気・死亡等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業成績が振るわない学生に対する支援策として、担任教員による個別面談に加えて、補習や個別指導等も行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	鍼灸師科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2,665 単位時間／単位	1,825 単位時間 ／単位	150 単位時間 ／単位	480 単位時間 ／単位	210 単位時間 ／単位	
		単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		148人	0人	8人	15人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。

成績評価の基準・方法
(概要) 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則で定めている卒業要件となる全ての単位を修得し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
(概要) 様々な種類の自由参加型ゼミを開講している。 また、定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
47人 (100%)	2人 (4.3%)	44人 (93.6%)	1人 (2.1%)
(主な就職、業界等) 病院、鍼灸院等			
(就職指導内容) 面談の実施や、就職フェアへの誘導などを実施。 また関連団体を通して、就職先紹介も行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師国家試験 47名合格 きゅう師国家試験 47名合格			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
150人	9人	6.0%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、経済的事情、家庭事情、けが・病気・死亡等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学業成績が振るわない学生に対する支援策として、担任教員による個別面談に加えて、補習や個別指導等も行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	日本語学科 医療福祉系1年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	875 単位時間/単位	628 単位時間 /単位	117 単位時間 /単位	16 単位時間/ 単位	114 単位時間 /単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	0人	0人	8人の内数	18人の内数	26人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	5人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
(就職指導内容) 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JLPT（日本語能力試験）N2 1名合格			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由) —		
(中退防止・中退者支援のための取組) 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	日本語学科 進学1.5年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5年	昼間	1,285 単位時間/単位	933 単位時間/ /単位	146 単位時間/ /単位	16 単位時間/ /単位	190 単位時間/ /単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		28人	28人	8人の内数	18人の内数	26人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。

学修支援等 (概要) 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33人 (100%)	31人 (93.9%)	1人 (3.0%)	1人 (3.0%)
(主な就職、業界等) 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
(就職指導内容) 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JLPT（日本語能力試験）N3 6名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	1人	3.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	日本語学科 進学2年コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,750 単位時間/単位	1,237 単位時間/ /単位	236 単位時間/ /単位	30 単位時間/ /単位	単位時間/ /単位	247 単位時間/ /単位
単位時間/単位							

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
100人	59人	59人	8人の内数	18人の内数	26人の内数

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
51人 (100%)	39人 (76.5%)	5人 (9.8%)	7人 (13.7%)
（主な就職、業界等） 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
（就職指導内容） 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） JLPT（日本語能力試験）N2 9名、N3 13名合格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
123人	12人	9.8%

(中途退学の主な理由) 家庭事情、進路変更、学業不振、問題行動による懲戒等
(中退防止・中退者支援のための取組) 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	応用日本語学科 1年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	856 単位時間/単位	409 単位時間 /単位	205 単位時間 /単位	16 単位時間/ 単位	226 単位時間 /単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		8人	8人	1人の内数	18人の内数	19人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
(概要) 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	11人 (84.6%)	0人 (0%)	2人 (15.4%)
(主な就職、業界等) 食品やプラスチック製品等の製造業、建設業、学校事務等			
(就職指導内容) 就職に関する個人面談や、就職フェアへの誘導などを実施。 さらに、履歴書の記入方法に関する指導や就職面接における指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) JLPT（日本語能力試験）N2 3名合格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	6人	31.6%
(中途退学の主な理由) 病気・けが・死亡等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	応用日本語学科 2年コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,708 単位時間/単位	935 単位時間/ 単位	315 単位時間/ 単位	72 単位時間/ 単位	386 単位時間/ 単位	
		単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	24人	24人	1人の内数	18人の内数	19人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 全学科共通の様式を使用して、シラバスを作成している。 シラバスには授業科目の概要・目的等を記載し、4月上旬頃を目途にホームページにて公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生面談を定期的実施し、学修意欲の把握に努めている。 また、定期試験やレポートなどにより学修到達度を確認し、学則及びシラバスで定めている評価方法に基づき、成績を評価している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 学則で定めている所定の授業時間数を履修し、且つ定められた学納金等を完納した者に対し、卒業の認定を行う。
学修支援等
（概要） 定期的な面談や、補習を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
一人 (100%)	一人 (0%)	一人 (0%)	一人 (0%)
（主な就職、業界等） —			
（就職指導内容） —			
（主な学修成果（資格・検定等）） —			
（備考）（任意記載事項） 応用日本語学科は2019年度新設のため、2年コースの卒業生は存在しない。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2人	0人	0%
（中途退学の主な理由） —		

(中退防止・中退者支援のための取組)
 遅刻や欠席の数が著しく増加している学生に対する支援策として、担任教員等による個人面談を行っている。この面談を通して、学生自身が抱える不安要素を払しょくすると共に学修意欲を確認し、その回復のための生活指導を徹底している。
 また、学修面或いは生活面のいずれかに問題が見られる場合には、学生の家族と密に連携し、その解決に努めている。

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復師科	250,000 円	870,000 円	440,000 円	「その他」に含まれるのは、 施設管理費と教材費。
鍼灸師科				
日本語学科 (医療 福祉系 1 年コー ス)	100,000 円	620,000 円		
日本語学科 (進学 1.5 年コース)	100,000 円	620,000 円		1 年次の授業料は 310,000 円。
日本語学科 (進学 2 年コース)	100,000 円	620,000 円		
応用日本語学科 (1 年コース)	100,000 円	750,000 円		
応用日本語学科 (2 年コース)	100,000 円	750,000 円		
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.heisei-iryogakuen.ac.jp/publication/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 業界関連団体勤務している方や卒業生などを評価委員として複数名招聘し、自己評価の客観性ならびに透明性を担保するため、教育課程などの項目について様々な角度から評価をしていただく。 その評価結果を参考とし、次年度の教育および学校運営水準の更なる向上を目指すことを基本方針とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
大阪鍼灸マッサージ協同組合・ 全国柔整鍼灸協同組合	2020. 4. 1～2022. 3. 31 (2 年)	企業等委員
貞友会 (同窓会) ・ まつもと整骨院鍼灸院	2020. 4. 1～2022. 3. 31 (2 年)	卒業生・企業等委員

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/publication/
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.heisei-iryo-gakuen.ac.jp/
--